

Vol.63

Vol.63 (2015年 夏号)

PMI 日本支部 ニュースレター

Column／他国カンファレンス 3

Best Practice and Competence／PM事例・知識 9

Activities／支部活動 13

PM Calendar／PMカレンダー 15

Fact Database／データベース 16

Editor's Note／編集後記 20

Column／他国カンファレンス	3
• PMI Leadership Institute Meeting (LIM) 2015 — Asia-Pacific 参加報告 PMI日本支部 徳永 幹彦 麻生 重樹 • PMI South Korea Chapter Conference 2015に参加して PMI日本支部 会 長 奥澤 薫 PMI日本支部 渉外担当理事 杉村 宗泰 PMI日本支部 地域担当理事 木下 雅裕 文責 木下 雅裕	
Best Practice and Competence／PM 事例・知識	9
◆「ポートフォリオ、プログラム、リスク」マネジメント 紹介セミナー PMI日本支部 事務局 ◆2015年4月度 月例セミナー 概要レポート セミナー委員会 野々市谷 有里	
Activities／支部活動	13
• PMI日本フォーラム2015のご案内	
PM Calendar／PM カレンダー	15
• PMI日本支部関連セミナー等	
Fact Database／データベース	16
Editor's Note／編集後記	20

◆ 商標等について

「PMI Project Management Institute」とそのロゴおよび「PMP」、「CAPM」、「PMBOK」、「OPM3」、「Quarter Globe Design」は、米国および他の国で登録されているプロジェクトマネジメント協会のマークであり商標です。プロジェクトマネジメント協会のマークの対象リストについては、プロジェクトマネジメント協会の法務部門へお問い合わせください。

「ITIL® (IT Infrastructure Library)」は、英国及び欧州連合各国における英国政府 Cabinet Officeの商標又は登録商標です。

Column／他国カンファレンス

■ PMI Leadership Institute Meeting (LIM) 2015 — Asia-Pacific 参加報告

PMI日本支部 徳永 幹彦
麻生 重樹

2015年3月27日～30日に、インドネシア バリ島のThe Westin Resort Nusa Duaにおいて、PMI Leadership Institute Meeting 2015 — Asia-Pacific (AP-LIM 2015) が開催されました。

1. AP-LIM (徳永幹彦)

【AP-LIMとは】

AP-LIMは、アジア・パシフィックの支部 (Chapter) のリーダー達 (日本支部で言えば理事等) が一堂に会して、今後のPMIの方向性やPMIのトップ・マネジメント施策についてPMI代表理事 (Chair) から説明を受けたり、テーマごとに分かれて支部運営などの悩みや改善方法を直接ディスカッションしたりするための集合会議です。

日程的には、3月28日～29日の全体Meetingと、3月27日のRegion 10とRegion 11、および3月30日のRegion 9と

Region 15のRegion Annual Meetingから構成されています。

AP-LIM参加支部および所属Regionは以下の通りです。

Region	名称	国／地域
Region 9	Northeast Asia	Hong Kong, Japan, Taiwan, South Korea, Mongolia
Region 10	Australia / New Zealand	Australia, New Zealand
Region 11	Western Asia	Bangladesh, India, Pakistan, Sri Lanka, Afghanistan
Region 15	Southeast Asia	Indonesia, Malaysia, Philippines, Singapore, Thailand, Vietnam

【AP-LIMの内容：全体ミーティング、PMI施策の説明】

Indonesia 支部のArisman Indrawan氏からのオープニングのあいさつ (写真：オープニング1) に続いて、PMI ChairのSteve DelGrosso氏、PMI President and CEOのMark A. Langley氏によるPMIコンセプトの紹介、PMI理事の紹介等が行われました (写真：オープニング2)。



オープニング1



オープニング2

Column / 他国カンファレンス

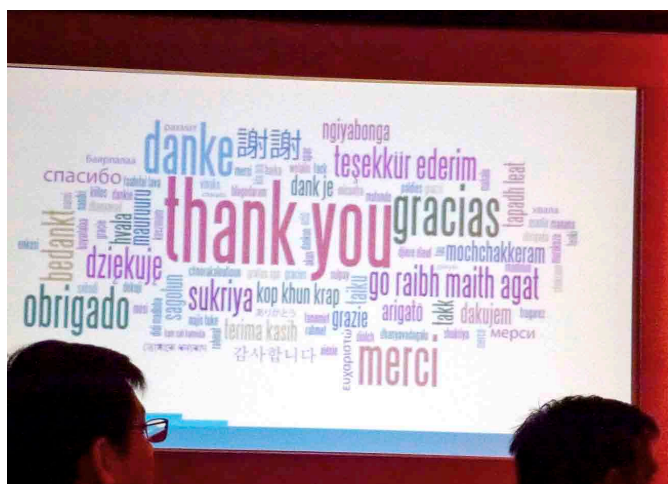
■PMI Leadership Institute Meeting (LIM) 2015 — Asia-Pacific 参加報告

その後、キーノートで、21世紀の組織をリードするためにはさまざまなメディアを活用し、変化していくことの必要性についてスピーチがありました(写真: KeyNote1)。また、PMIの施策として、支部のリーダーの役割、PMIの資格、PMIが提供するサービス、ソーシャルメディア、グローバルな取り組み、および財務管理等、支部を維持拡大していくために必要となる施策とツールについて講演がありました。



KeyNote1

最後のキーノートでは、マジシャンのVinh Giangによるマジックショーもあり、和やかな雰囲気では終了しました。(写真: Closing)



Closing

【AP-LIMの内容: 各支部の施策紹介とワークショップ】

各支部の施策として議論された主なテーマは以下の通りです。

- Indonesia 支部:
ボランティアを集める方法
- New Zealand 支部:
大学生を対象とした、プロジェクト管理のコミュニティ
- Sydney 支部:
大学生、教師、非営利の専門家を指導するメンバーやボランティア
- Melbourne 支部:
良いスピーカーを見つけ、育てるための方法
- Mongolia 支部:
モンゴルの課題および文化の多様性
- Pune Deccan India 支部:
ボランティアを集め、維持していく方法

参加したセッションの中で印象的だったのは、Indonesia支部のセッションです。まず、参加者全員でインドネシアの舞踊を踊りながら自己紹介することで、アイスブレイクします(写真: セッション)。



セッション

施策としては、SNSやMail等のメディアを活用してボランティアとコンタクトし、会食などを通してお互いをよく知るところまではよくあるパターンだったのですが、最後に「カラオケ」で心をわしづかみにする部分を強調されていたのが印象的でした。

どの支部も、規模があまり大きくなく、ボランティアメンバーを集めることに苦労していることがうかがえました。

Column / 他国カンファレンス

■PMI Leadership Institute Meeting (LIM) 2015 — Asia-Pacific 参加報告



レセプション



パリの朝日

LIM中はホテルに缶詰めなのですが、1日目の夜のレセプションでは全員がインドネシア舞踊を見ながら歓談し（写真：レセプション）、朝は散歩（写真：パリの朝日）や海水浴を楽しみ、夜は気の合ったメンバーでワイワイガヤガヤなど、いろいろな場面でネットワーキングが行われ、親交を深めました。

参加者は、いつでもPMIおよび支部の活動に積極的で、自分たちが支部を拡大していくという意気込みに満ちていました。日本支部もさらに拡大していくための施策を推進して行かなければならないと再認識しました。

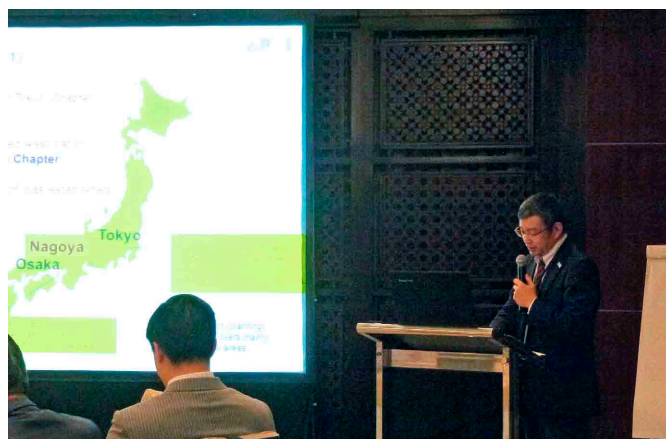
2. Region9 meeting（麻生重樹）

AP-LIMに引き続き、3月30日(月)にRegion9 Annual Meetingが開催されました。Region9は日本、香港、韓国、台湾、そして昨秋から新たにモンゴルが加わった5支部（Chapter）で構成されています。会議はRegion9ならびに各支部の最新動向紹介、支部メンバー間のチームビルディング演習等が行われた後、最後に参加者全員での集合写真で和やかに閉会しました。

【私から紹介した「日本支部の特徴」】

日本は1国1チャプター（たとえば、オーストラリアは国内に6つのチャプターがある）のため、全世界を見渡しても大規模なチャプターであるという特徴を有しています。一方で、PMPホルダー約31,500人に対して、支部会員がその1割の約3,200人にとどまっていること、そして、数あるPMI®の資格の中で、PMP®以外（PgMP®、PMI-ACP®等）の有資格者が少ないことが大きな課題になっています（これは、英語圏ではないことによる言葉の問題も多分にあるようで、

隣国の韓国でも同じような課題が提起されていました）。また、PMI®は個人会員をターゲットにしていますが、日本には法人スポンサー制度、アカデミックスポンサー制度に加えて、昨年度末から行政スポンサー制度が発足したのも大きな特徴の1つです。



PMI日本支部からの発表

【他支部の状況】

●香港支部

IT以外の業種（特に金融系）に焦点をあてており、また、若手PM育成に注力していること、その一貫で大学との協業はじめ、学校へのPM啓蒙活動を活発に行っているという紹介がありました。

●韓国支部

PMP®有資格者の価値向上ならびに女性PM拡大に積極的に取り組んでいるとのこと。この成果として、昨年度はRetention Awardを受賞されました。

Column / 他国カンファレンス

■PMI Leadership Institute Meeting (LIM) 2015 — Asia-Pacific 参加報告

●台湾支部

地元企業と密接に結びついているほか、大学と強く連携しており、有資格者が着実に増加しているという紹介がありました。

●モンゴル支部

モンゴル企業の中にPMI概念や方法論を広めること、PM経験者やPMP有資格者を増加させること、そして、PMに関する知識やアイデアを広めるためのコミュニティの提供を目的として、昨年6月に新たに支部として発足したという紹介がありました。

集合写真を見ていただいてもおわかりになるとおり、全般を通して各国の代表者として女性の参加者が非常に多いこと(約半数)、日本に比べて平均年齢が若いことを強く印象づけられました。市場全体のグローバル化がますます加速してい

く中で、支部間の連携を一層強固にしていくとともに、若年層や女性層を着実に取り込んでいる他支部の活動をぜひ参考にしたいと思っています。



記念撮影

■ PMI South Korea Chapter Conference 2015に参加して

PMI日本支部 会長 奥澤 薫

PMI日本支部 渉外担当理事 杉村 宗泰

PMI日本支部 地域担当理事 木下 雅裕

文責：木下 雅裕

韓国ソウルの南、ソチョ区にあるカンファレンスセンター（良才市民の森に隣接したThe-K Hotel）において、2015年5月15日～16日にPMI South Korea Chapter Conference 2015が開催され参加しましたので、概要を報告します。

1. PMI South Korea Chapter Conference 2015 概要

“Building a Better Society through Project Success”と銘打ってSouth Koreaとしては3回目の開催です。

(1) オープニングセッションはYoung Min Park（パク）、キーノートスピーチは政府、民間企業（SAP Korea）、大学（Korea University）からそれぞれ1名が登壇され、以下のようなメッセージが投げかけられました。

- どうすれば、R&Dの生産性を向上させられるか？
- デザイン・シンキングでプロジェクトをシンプルに！
- アイディアを効果的に利益に結び付けるには！

(2) スピーチはハングルで行われてもスクリーンには英語が表示されるなどの工夫はされていましたが、全てハンゲルのセッションもあったため、PCやスマホで仕事する人の姿もチラホラ。運悪く、大統領が近所を通過するのに伴う安全措置として通信遮断が行われ、内職？もできなくなるハプニングも。その後にランチとネットワーキングセッションを経て、午後はRegion9（以下R9）のメンターやリーダーたちのプレゼン（英語×同時通訳to ハングル）へ。

(3) R9プレゼンはメンターのジャックから始まりChapter Leaderの先陣はJapan:杉村理事でした。以降China:ジェ

フ、Taiwan：ウイリアム、HongKong：ダニー、Mongolia：マークらはお互い顔なじみのようで、聴きやすくかつ自信にあふれるプレゼンが続きました。

(4) 杉村理事のプレゼンは流暢で熱意にあふれ、委員会の再編や諸活動が丁寧かつわかりやすく語られ、まとめのJapan Trendのアジャイルへの取組とその苦労など、聴衆の共感を大いに得るものでした。

(5) セッションと並行して、杉村理事とSouth Korea Chapterの尽力により韓国企業との面談も実現しました。詳細は割愛しますが、現地企業の方々と直接プロジェクトマネジメントについてヒアリングする機会はとても貴重で有益な時間の使い方でありました。

(6) 当日夜はWelcome Party、二日目はHeritage Tourを設定いただき、韓国企業との面談設定への尽力を含めKorea Chapterの皆さまに大変お世話になりました。

2. 印象に残ったセッション

(1) The Cultivation of Talent from Tech/Managerial Compound Type

by Dr. Lin Shaopei (PMI Board Director)

技術とマネジメントの両方に明るい人材創り(Compound Talents)への取組と言えば古くて新しいテーマですが、その必要性はIoT時代の到来とともに切実さを増しています。今日的に特に強く求められるコンピテンシーは、

- Vision and Adaptability
- Communication Skills
- Leadership

Column / 他国カンファレンス

■PMI South Korea Chapter Conference 2015に参加して

- Awareness of Economics
- Awareness of Market

の5つとのこと。

技術系マネジャーとマネジメント系のそれとのSWOT別比較など興味深い分析の紹介もありました。

(2) Effective Management of Cross-Cultural Project Team

by Marc Tasse (PMI Mongolia Executive director)

マークの軽妙なプレゼンもさることながら、モンゴル独自の文化・制度^(※1)やモンゴルと他国とのプロジェクトの苦労から導き出された、異文化間のプロジェクトマネジメントのコツ^(※2)など実戦に役立つ示唆が満載であった。

※1 女性が働き手の主力で高等教育修了者の65%が女性、母性保護制度も充実しており産休は2年とれる

※2 絶え間ないコミュニケーション、アクティブリスニング、シンプルで明快な表現、信頼関係の構築、他の文化に尊敬を示すこと、文化の違いに敏感になること、相手の理解を必ず確認する、など

3. 感謝の思いと未来につなぐべきこと

(1) 今回実現した“カンファレンス先の現地企業〔SangAh社〕との直接面談”は杉村理事の企画で、韓国におけるプロジェクトマネジメントの方向性とトピック、今後日本の企業が韓国の企業とプロジェクトを遂行するにあたり知っておくべきポイントなどが知見として得られました。今後のカンファレンスにおいても現地R9 Chapterの協力が必要ですが、こうした取組が相互理解の大きな一助となると思われます。

(2) プレゼン、資料ともハングルのセッションは理解が困難なのでその時間帯でのボランティアによる観光ツアーはR9メンバーにはとてもうれしい心遣いでした。筆者個人の思いですが、日本での開催イベントの折には「おもてなし企画？」のお手伝いをさせていただき、R9メンバーたちとさらなる交流を深めたいと思います。



現地企業との面談

(左から) Marketing Dept./Sales Director : Mr.Jung Chul Park
杉村理事
CEO : Mr.Yu Gil Kim
奥澤会長
PM Service Team Manager : Lee Do Hyun
木下 (筆者)



杉村理事のプレゼンの様子



会場となったホテル：左と併設のカンファレンスセンター

Best Practice and Competence / PM 事例・知識

■「ポートフォリオ、プログラム、リスク」マネジメント 紹介セミナー

PMI日本支部 事務局

本年4月から6月にかけて、全国8拠点においてポートフォリオマネジメント、プログラムマネジメント、リスク・マネジメントについて紹介セミナーを開催しました。

PMIでは単一プロジェクトをマネジメントするプロジェクトマネジメントでは扱えない、複数関連プロジェクト群やまた複数プログラム群をそれぞれプログラムマネジメント、ポートフォリオマネジメントとして標準を提供していますが、それらについて数年ぶりの紹介行脚でした。また、知識エリアの一つであるリスク・マネジメントはどの標準でも重要であるため併せて紹介させていただきました。

担当した講師は全て、PMI日本支部会員のボランティア・メンバーとして活動しているプロジェクト／ポートフォリオマネジメント研究会とリスク・マネジメント研究会に所属しています。

【目的】

プロジェクトマネジメントの上位にプログラムマネジメントとポートフォリオマネジメントがあり、グローバルでは既に多く適用されていること、また全てで重要なリスク・マネジメントの状況を紹介し理解いただくこと

現在、PMIではそれぞれに資格認定を提供しています

【開催地】

福岡、大阪、名古屋、東京、広島、金沢、札幌、仙台の8拠点

なお、東京については申し込み多数のため、7月に2回目を追加開催

【紹介時間と参加費】

各テーマ1時間の合計3時間（3PDU受講証明書を発行）

PMI日本支部会員と各法人スポンサー社員2名は無料

【セッション概要】

● イントロダクション

セミナーは「PMBOK®ガイドの実践だけでプロジェクトは

成功するのか？」という問いかけから始まります。

PMBOK®ガイドがフォーカスしている「プロジェクトマネジメント」と、戦略との整合性や複数プロジェクトのマネジメントにおける効果の最適化を図るためにその重要性が高まっている「ポートフォリオマネジメント」および「プログラムマネジメント」との違いや相互の関係を最初に理解していただきました。



● ポートフォリオマネジメント

ポートフォリオマネジメント標準第3版では、第2版と比べてプロセス群、知識エリア、およびプロセス数が少し増え、表現の統一や構成の変更により標準としての品質が向上しています。

今回のセミナーでは、ポートフォリオマネジメント標準第3版の内容をもとに、3つのマネジメント・プロセス群および5つの知識エリアについて概要を解説しました。

なぜポートフォリオマネジメントが必要か、どのようにポートフォリオ選択の意思決定を行うのか、その結果何が得られるのかについての理解を深めていただきました。

1. ポートフォリオマネジメント標準 第3版
2. ポートフォリオとは何か
3. ポートフォリオ・ガバナンス
4. ポートフォリオマネジメント・プロセス
5. 戦略整合性

■「ポートフォリオ、プログラム、リスク」マネジメント 紹介セミナー



● プログラムマネジメント

プログラムマネジメント標準 第3版は、その構成や内容が第2版から大きく変更されました。「戦略整合」、「ベネフィット・マネジメント」、「ステークホルダー・マネジメント」、「プログラム・ガバナンス」、「プログラム・ライフサイクル」の5つのパフォーマンス領域に体系化され、長期で複雑な複数案件全体のマネジメントや環境変化に対応した「戦略目標の達成」と「ベネフィットの提供」に焦点をあてたプログラムマネジメント標準を提供しています。

今回のセミナーでは、プログラムマネジメント標準 第3版の内容をベースに、プログラムとプロジェクトの違いや5つのプログラムマネジメント・パフォーマンス領域など、プログラムマネジメントで重要となる考え方を解説しました。

1. プログラムマネジメント標準 第3版 改定の背景
2. プログラムとは何か
3. プログラムマネジメント・パフォーマンス領域
4. プログラム戦略整合
5. プログラム・ベネフィット・マネジメント
6. プログラム・ガバナンス
7. プログラム・ライフサイクル・マネジメント



● 実践的プロジェクト・リスク・マネジメント

プロジェクト・リスク・マネジメントはPMBOK®ガイド 第5版の中で独立した知識エリアとして位置づけられていますが、今回のセミナーではその概要と、代表的なプロセスとして「リスク特定」、「定量的リスク分析」、および「リスク対応計画」を取り上げて解説しました。

また、今年3月にリスク・マネジメント研究会からPMI日本支部会員向けに公開された、ツール・テンプレート集から「リスク登録簿」や「発生確率と影響度の定義」をとりあげてその活用方法をご紹介します、プロジェクトの現場ですぐに役立つリスク・マネジメントを解説しました。

1. プロジェクト・リスク・マネジメント
2. 概要
3. リスク・マネジメントの代表的プロセス
 - 3.2 リスク特定
 - 3.3 定性的リスク分析
 - 3.4 リスク対応計画



今回のセミナーは、広島会場で参加された皆さんのご協力をいただき、ビデオ撮影をいたしました。より多くの方に、ポートフォリオマネジメント、プログラムマネジメント、およびリスク・マネジメントの概要を知っていただけるよう、8月以降にオンラインセミナーとして公開できるよう準備予定です。

セミナーレポート

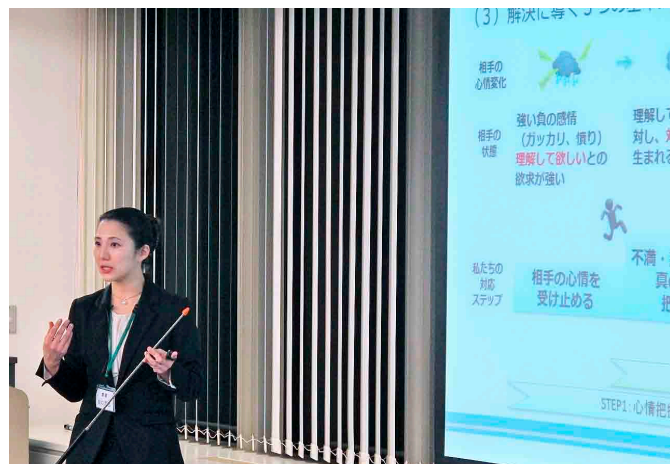
■ 2015年4月度 月例セミナー 概要レポート

セミナー委員会 野々市谷 有里

【セミナー概要】

- 開催日：2015年4月17日(金) 19:00～21:00
- タイトル：もう振り回されない！ クレーム発生時のハンドリング術 ～ ステークホルダーの怒りを信頼に変える秘訣 ～
- 講師：人材育成コンサルティング Be Reborn
代表 ^{ほりぐち その お}堀口 園生 氏
- 講師のプロフィール：
- ・コンサルタント会社の営業職を経て、大手テレマーケティング会社に勤務。
 - ・現場責任者としてエンドユーザー・外資系クライアントからの事業存続を揺るがすハードクレームやチームメンバーからの内部クレームを自ら数多く解消するかたわら、電話経験ゼロの社員を電話対応のプロ集団に育て上げ、弱小チームを100名規模のトップチームに生まれ変わらせた経験を持つ。
 - ・国際コーチ連盟が認定する育成機関のトレーニングを修了し、CPCC（米国CTI認定プロフェッショナル・コアアクティブ・コーチ）資格を保有するプロフェッショナル・コーチでもある。

【講演の様子】



【講演内容】

「クレーム」の語源は「Claim」であり、正当性や権利を主張することを意味します。たとえば、保証請求などをする場合、この「Claim」にあたります。日本語における「クレーム」は、「文句をいう」といった意味で使われることが多いのですが、このセミナーでは、『「Claim」を期待と現実のギャップから生まれる不満を主張することと定義する』ところから、講演がスタートしました。

まず、はじめに、クレームを構成する二つの要求について説明がありました。一つは、「感情的要素」である、感情を害されたことへの謝罪や反省の要求です。もう一つは「理性的要素」で、物理的・金銭的損害への補償の要求です。クレームに対応するためには、この二つ要素があることを念頭においておく必要があります。

次に、クレームが悪化する三つの要因について説明がありました。

一つ目の要因は、相手の怒りに対する配慮に欠ける態度。本人は謝っているつもりでも、効果的な謝罪ではないために、相手に誠意がないと思われてしまったり、「他責」や「人ごと」に聞こえてしまったりして、火に油を注いでしまう場合があります。

■2015年4月度 月例セミナー 概要レポート

二つ目の要因は、怒りを回避しようと「逃げ」の姿勢をとってしまう態度。つい言い訳をしたり、逆に、ひたすら謝り倒したりすることで、「謝れば済むと思うな」とさらに怒られてしまう事態に陥ります。

三つ目は、相手の怒りの根本的原因がつかめず、的外れな対応をとってしまうこと。あまりの相手の怒り度合いに動揺してしまい、事実が何か整理できずに思考が停止し、解決案を提示しても「だからそういうことじゃなくて!」と失望されるケースがこれにあたります。

参加者の中には大きくうなずく人が多くみられ、同様の経験をされていることがうかがえました。

続いて、受けてしまったクレームに対して、前述の三つの要因を意識して悪化させないことに加えて、少しでもスムーズに解決へ導くための、三つの基本的ステップの説明がありました。

一つ目は、相手の心情を受け止めるステップ。二つ目は、不満や怒りの原因や真の要望を把握するステップ。三つ目は、解決策・代替案を提示するステップ。ここで大事なことは、一つ目のステップである「感情を受けとめること」を、最後まで丁寧にしっかりと行うことです。ここが抜けてしまうと、最初のステップからやり直しになってしまうので、注意が必要です。

三つの基本ステップを理解したところで、それぞれを具体的にどのように実践していくか、その手法についての説明がありました。

一つ目のステップである、相手の強い負の感情を受け止めるためには、「怒りを静める感情コントロール術」としてまずは、「しおらしく」、「真摯」に聞こえる謝罪の音声表現を習得することが有効とのこと。相手に「尊重されている」印象を与える会話術として「オウム返し（相手の発言を要約して返す）」することにより、「話を聞いてもらっている」との安心感を与えることができるというのには納得感ありでした。

基本ステップの二つ目である、「怒りの原因を整理する」

ための説明では、感情的原因が解消できてから、理性的原因に訴求すべく、相手の申告を5W2H（Who, What, When, Where, Why, How, How much）で整理・評価せよとのこと。三つめのステップである、解決策・代替案を提示するためには、解決に導く友好型交渉術を用います。二つ目のステップで原因をカテゴリ化したところで、「落としどころ」のシナリオを想定しておくことが重要です。

もっとも難関な、解決に向けての交渉のためには、自分の要求や意見を相手の権利を侵害することなく、誠実に、率直に、表現する「アサーティブ・コミュニケーション」が有効とのこと。攻撃的にならず、受け身になりすぎず、あくまでも「アサーティブ」な態度を貫くことが重要です。

これらの知識とスキルを習得することで、どんなクレームにも対応できる、そんな自信を得ることのできた講演でした。

【企画者の感想】

コールセンターのマネジャー業という、お客さまとの会話はすべて電話のみという制約のある中で、責任ある立場で仕事をこなされているだけあって、講師の堀口氏の講義内容はどれも説得力のあるものでした。

特に、堀口氏が実際に受けたクレームを、どのように対応したかという経験談は、基本ステップや手法をより具体的に理解する上で役立ちました。

プロジェクトでは、毎日毎日クレームを受け続けるような状況はあり得ないので、コールセンターの仕事に比べれば自分の仕事はまだまだマシだなあ、などと思って少し元気になった参加者もいたのではないかと思います。ただ、一方的に講演を聴くだけではなく、講師のリードで声を出して練習したことは、貴重な経験だったのではないのでしょうか。多くの参加者は、明日から早速、習ったことを実践してみようと思ったことでしょう。

講演後の参加者の明るい顔が印象的でした。非常に好評を得たセミナーだったので、ぜひ第二弾も企画したいと考えています。

Activities / 支部活動



一般社団法人PMI日本支部 主催

PMI日本フォーラム2015のご案内

今年も7月11日、12日の両日に、PMI日本フォーラム2015を開催できる運びとなりました。これもひとえに皆さまのおかげと深く感謝しております。また、このたびのフォーラムにご支援とご協力頂くフォーラム・スポンサーの皆さま、そして日頃よりPMI日本支部の活動にご支援とご協力を頂いている会員の皆さま、法人スポンサーの皆さま、アカデミック・スポンサーの皆さまに厚くお礼申し上げます。

一昨年来の「アベノミクス」の政策が、賃上げに代表されるようにようやく長いデフレの重圧から脱する明るさが見えてきたように見えます。しかし、その効果は中小企業、地方には未だ及ばず、道半ばというところで気を許すことはできません。一方、グローバルな競争はますます激しくなるばかりで、国内での成功を踏まえて世界に打って出るようなモデルでは通用せず、最初からグローバルのマーケットで勝負をする戦略で取り組むことが求められています。そのためには、変動する市場に素早く適応するビジネス展開をすることが必要です。このような状況下で日本企業がグローバルな市場競争を生き抜くには、他社に勝るスピードでの自己革新が求められています。

PMI日本フォーラム2015は、グローバル環境でのイノベーション実現において最も重要な要素として「リーダーシップ」を取り上げます。そして、タイトルを「リーダーシップ」、サブタイトルを「幾多の困難を乗り越えて成功に導く為に」と定めました。激しく変化する事業環境にタイムリーな自己変革を成し遂げる組織を牽引する「リーダーシップ」にフォーカスし、より厳しいグローバル競争時代に直面する皆さまをご支援したいと考えます。

一言で「リーダーシップ」と申しまして、その達成となると幾重ものハードルを越えていかなければなりません。PMI日本フォーラム2015では、経験豊富で多くの知見を有するゲスト・スピーカーを広く国内外から招聘し、皆さまにグローバルな動向に接していただける機会を用意いたしました。

最後に、PMI日本支部会員で構成されるフォーラム・ボランティアの皆さまのおかげで、例年、円滑なフォーラム運営を実現してきました。ご尽力に対し、ここに心より感謝する次第です。

リーダーシップ ～幾多の困難を 乗り越えて成功に導く為に～

PMI
日本
フォーラム
2015

■開催日 2015年 7月11日(土)～12日(日)

受付開始 9:30～(11、12日)

講演 10:00～18:05(11日)
10:00～18:00(12日)

交流会 18:20～20:20(11日のみ)

※交流会は、PMという同じテーマを抱えた同士が語り合うことでさまざまなヒントを得ることを目的としています。初めての方も、ぜひご参加ください。

■講演会場 学術総合センター

■交流会会場 如水会館(学術総合センター隣接)



学術総合センター 東京都千代田区一ツ橋2-1-2 03-4212-6321
東京メトロ半蔵門線、都営地下鉄三田線・新宿線「神保町」A6、9出口
東京メトロ東西線「竹橋」1B出口

参加費(税込)

		参加費			受講証明		
		PMI日本支部会員	法人スポンサー	一般	PDU	PMP®受験用受講証明	ITコーディネータ受講証明
早割	1日参加	17,000円	19,000円	29,000円	6PDU	6時間	6時間
	両日参加	24,000円	28,000円	46,000円	12PDU	12時間	12時間
	交流会	2,000円	2,000円	2,000円	—	—	—
通常	1日参加	18,000円	20,000円	30,000円	6PDU	6時間	6時間
	両日参加	26,000円	30,000円	48,000円	12PDU	12時間	12時間
	交流会	4,000円	4,000円	6,000円	—	—	—

申込みに関するお問合せはPMI日本フォーラム受付窓口へ

問先: forum-2015@pmi-japan.org

フォーラム受講申し込みはPMI日本フォーラム2015公式サイトから

(日本語) <https://www.pmi-japanforum.org/pmij2/forum-2015/index.html>

(英語) <https://www.pmi-japanforum.org/pmij2/forum-2015/e/index.html>

■支部会員の方はお得な支部会員料金でご参加いただけます。この機会に支部への入会をご検討ください。

■早期申し込み割引制度
2015年6月8日(月)までに参加費お支払い完了の場合に、割引の料金で参加できます。

■参加費お支払い後のキャンセルはお受けできません。確実に参加いただけることを確認の上申し込みください。

■お申し込みより10営業日までにお支払い未完の場合、断りなくお申し込みを取り消させていただきます場合があります。

■ご注意

①申し込みは1日単位です。半日単位や1講座のみの申込みはできません。

②1日目:13時20分～18時05分、2日目:10時00分～18時00分は複数トラック方式のプログラムです。受講申込みの際、参加を希望する講演を各時間ごとに選択してください

Activities / 支部活動

■ PMI 日本フォーラム2015のご案内



PMI Japan Chapter

Opening address

I am glad that once again, the PMI Japan Forum is being held this year on July 11 and 12. I am deeply grateful for the efforts of everybody who made this possible. I am also very grateful for the support we have received from our forum sponsors, as well as from our members, corporate sponsors and academic sponsors who support the day-to-day activities of the PMI Japan Chapter.

As evidenced by the rise in wages, the 'Abenomics' economic policy from the year before last appears to have achieved the heartening result of bringing the country out of the long trough of deflation. However, these effects have yet to be seen in small and medium-sized enterprises and outside the major cities, and so there is still a way to go. On the other hand, global competition is becoming increasingly intense, and models that succeed in Japan do not necessarily translate to global success. Organizations must develop strategies that allow them to compete from the start in the global market. For this reason it is necessary to develop businesses that can adapt swiftly to fluctuating markets. For Japanese companies to survive in this global market competition, they must transform themselves faster than other companies.

The PMI Japan Forum 2015 has identified "leadership" as the most important factor in achieving innovation in the global environment. Therefore, we have titled the Forum "Leadership", with the subtitle "To win a great success". By focusing on the "leadership" that will enable organizations to transform themselves quickly in a highly changeable business environment, we seek to support forum participants who are facing times of stringent global competition.

While it may be easy to talk about leadership, many hurdles must be overcome to achieve it. We have invited guest speakers with extensive experience and knowledge, widely from home and abroad to the PMI Japan Forum 2015, to give you an opportunity to learn about global trends.

Finally, we have been able to hold the forum without hitch every year thanks to the work of forum volunteers from the PMI Japan Chapter. I would like to thank all the volunteers for their effort.

Leadership — to win a great success

**P M I
J A P A N
F O R U M
2 0 1 5**
■ Date 11th-12th July, 2015
Registration 9:30- (11th, 12th)
**Lecture..... 10:00-18:05 (11th)
10:00-18:00 (12th)**
Networking..... 18:20-20:20 (11th)
■ Lecture
Gakujutsu Sogo Center, Tokyo, Japan
■ Networking
Josui Kaikan (next to the Gakujutsu Sogo Center)


Gakujutsu Sogo Center
2-1-2 Hitotsubashi, Chiyoda-ku, Tokyo 101-0003
TEL: 81-3-4212-6321

By Train (Subway)

Tokyo Metro Hanzomon Line / Toei Mita Line / Toei Shinjuku Line
"JIMBOCHO" Exit A6 or A9

Toyko Metro Tozai Line "TAKEBASHI" Exit 1b
3-5 minutes walk from the stations

■ Participation fee (includes tax)

		Participation Fee			Certificate of Attendance		
		PMI Japan Chapter Member	Corporate Sponsor	Non-Member	PDU	PMP® Application Contact Hours	IT Coordinator Knowledge Hours
Early Bird Disc.	One Day	17,000 JPY	19,000 JPY	29,000 JPY	6PDU	6Hrs	6Hrs
	Two Days	24,000 JPY	28,000 JPY	46,000 JPY	12PDU	12Hrs	12Hrs
	Networking	2,000 JPY	2,000 JPY	2,000 JPY	—	—	—
Normal	One Day	18,000 JPY	20,000 JPY	30,000 JPY	6PDU	6Hrs	6Hrs
	Two Days	26,000 JPY	30,000 JPY	48,000 JPY	12PDU	12Hrs	12Hrs
	Networking	2,000 JPY	4,000 JPY	6,000 JPY	—	—	—

Contact

e-mail: forum-2015@pmi-japan.org

Registration

(Japanese) <https://www.pmi-japanforum.org/pmij2/forum-2015/index.html>

(English) <https://www.pmi-japanforum.org/pmij2/forum-2015/e/index.html>

Note 1: PMI chapter members can participate the forum with very attractive low prices. Please join PMI Japan Chapter at this opportunity.

Note 2: Early bird discount
Early bird discount will be applied if participation fees are paid by June 8, 2015.

Note 3: Cancellation will not be accepted after payment of application fees. Please make sure that you can attend before applying.

Note 4: If payment is not made within 10 working days of application, the application may be cancelled without notice.

Note 5: Attention

1. An application can be made on a basis of a day. No application only for a half day or one session is allowed.

2. The program is structured to have multiple tracks during the time of 13:20-18:05 on the first day and 10:00-18:00 of the second day. When you apply, please select sessions you wish to attend.

PM Calendar / PM カレンダー

PMI日本支部のイベントならびにPM教育関連セミナーなどの案内です。

詳しくは、PMI日本支部のWebサイトをご参照ください。

■ PMI日本支部関連セミナー

【ホームページ公開済】

●「ポートフォリオ、プログラム、リスク」マネジメント 紹介セミナー

- 日時：7月25日(土) 13:30～16:50
- 場所：アクセス渋谷フォーラム
- 3PDU
- 会員、法人スポンサー社員（2名/社）は無料

●アジャイルプロジェクトマネジメントの基礎

- 日時：8月28日(金) 9:30～18:00
- 場所：PMI日本支部セミナールーム
- 7PDU

●【大阪開催】PMBOK® 第5版対応セミナー

- 日時：9月12日(土)・13日(日)
- 場所：大阪産業創造館
- 14PDU

●9月度 月例セミナー

プロジェクトを成功に導く全員参加型イノベーション組織とは～成功事例の本質を探り、日々のプロジェクトマネジメント活動に活かす～

- 日時：9月4日(金)
- 時間：19:00～21:00
- 場所：アクセス渋谷フォーラム
- 2PDU

■ PMI日本支部関連イベント

●PMI日本フォーラム2015

- 日時：2015年7月11日(土)・12日(日)
- 場所：学術総合センター（東京・神保町）、梅田センタービル（大阪・梅田）
- 12PDU

【予定】

●アジャイル/デザイン思考イノベーションの基礎 ～イノベティブな製品・サービスを創出する手法～

- 日時：10月7日(水) 9:30～18:00
- 場所：PMI日本支部セミナールーム
- 7PDU

●PMI Japan Festa 2015

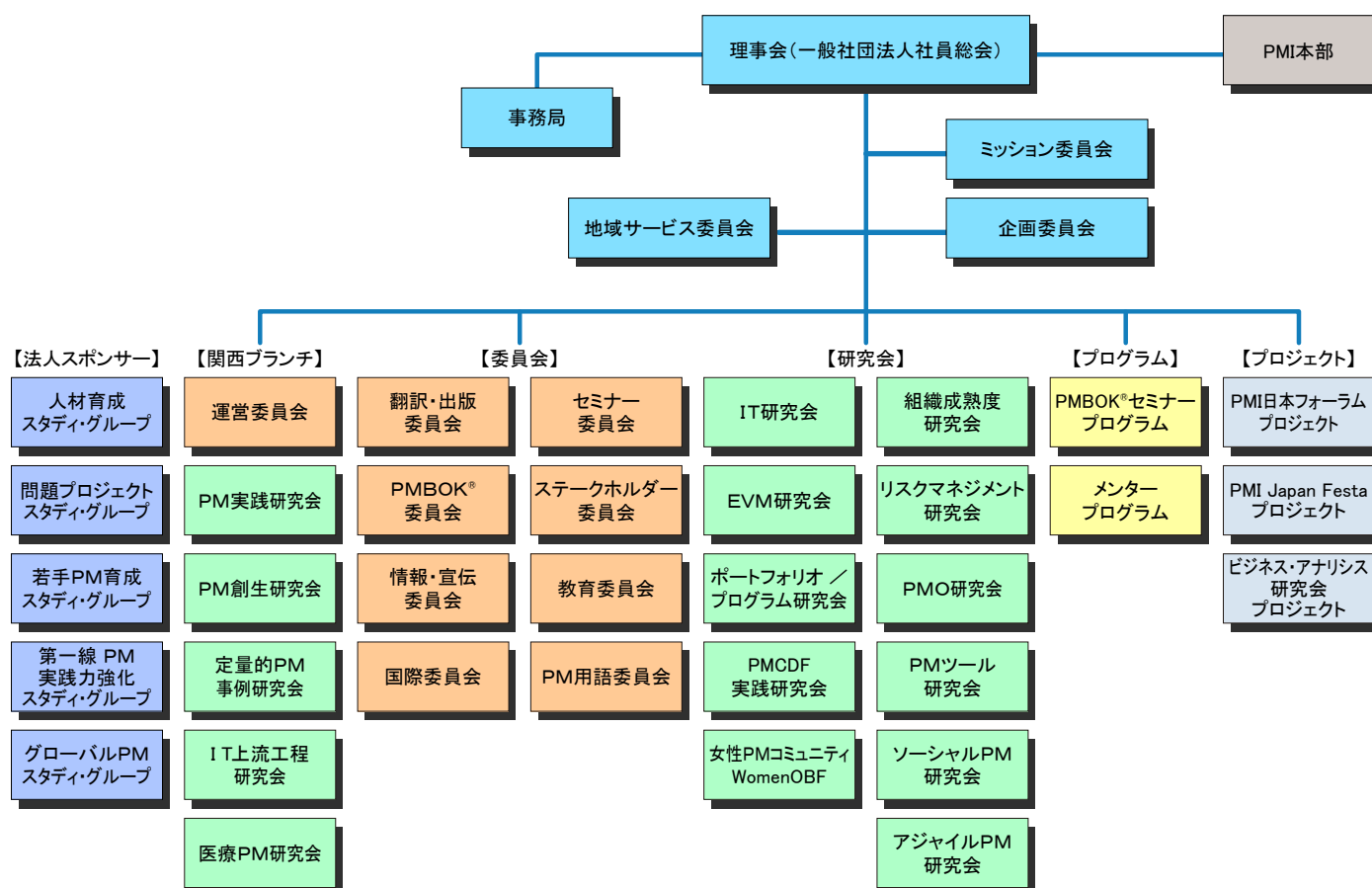
- 日時：2015年11月7日(土)・8日(日)
- 場所：慶應義塾大学日吉キャンパス 協生館
藤原洋記念ホール
- 9PDU

*なお、イベント、セミナー、コースなどは、諸般の事情により変更または中止される場合があります。
PMI日本支部ホームページで確認をお願いいたします。(https://www.pmi-japan.org/event/)

Fact Database / データベース

PMI日本支部やPMP®資格取得者に関する最新情報をお届けします。

■支部活動 (2015年6月現在)



■理事一覧 (2015年6月現在)

会 長	：奥 澤 薫 (日本電気株式会社)
副会長	：片 江 有 利 (株式会社プロシード)
理 事 (ミッション担当)	：端 山 毅 (株式会社NTT データ)
理 事 (マーケティング・会員担当)	：徳 永 幹 彦 (株式会社日立インフォメーションアカデミー)
理 事 (マーケティング・会員担当)	：武 上 弥 尋 (アイエス情報システム株式会社)
理 事 (研究担当)	：当 麻 哲 哉 (慶應義塾大学大学院)
理 事 (教育担当)	：本 間 利 久 (北海道大学)
理 事 (教育担当)	：中 嶋 秀 隆 (プラネット株式会社)
理 事 (渉外担当)	：杉 村 宗 泰 (日本マイクロソフト株式会社)
理 事 (社会貢献担当)	：高 橋 正 憲 (PMプロ有限公司)

理 事（社会貢献担当）	：麻 生 重 樹（日本電気株式会社）
理 事（広報・宣伝担当）	：竹 内 正 興（一般財団法人国際開発センター）
理 事（財政担当）	：三 嶋 良 武（株式会社三菱総合研究所）
理 事（地域担当）	：神 庭 弘 年（神庭PM研究所）
理 事（地域担当）	：木 下 雅 裕（ニッセイ情報テクノロジー株式会社）
理 事（コンピテンシー担当）	：福 本 伸 昭（日本アイ・ビー・エム株式会社）
理 事（コンピテンシー担当）	：除 村 健 俊（株式会社リコー）
監 事	：渡 辺 善 子
監 事	：平 石 謙 治

■最新の会員・資格者情報（2015年4月末現在）

会員数		資格保有者数						
		PMP®		PMI-SP®	PMI-RMP®	PgMP®	PMI-ACP®	CAPM®
PMI本部	日本支部	世界全体	日本在住	日本在住	日本在住	日本在住	日本在住	日本在住
461,609人	3,191人	650,971人	31,523人	4人	5人	4人	14人	71人

■行政スポンサー（2015年6月現在）

- ・三重県 桑名市

■法人スポンサー 一覧（108社、順不同、2015年6月現在）

- ・TIS株式会社
- ・日本アイ・ビー・エム株式会社
- ・株式会社NSD
- ・株式会社プロシード
- ・株式会社インテック
- ・キヤノンITソリューションズ株式会社
- ・日本電気株式会社
- ・株式会社ジェーエムエーシステムズ
- ・アイアンドエルソフトウェア株式会社
- ・株式会社NTTデータ
- ・日本マイクロソフト株式会社
- ・プラネット株式会社
- ・株式会社建設技術研究所
- ・日本ユニカシステムズ株式会社
- ・株式会社クレスコ
- ・ラーニング・ツリー・インターナショナル株式会社
- ・日本ヒューレット・パカード株式会社
- ・株式会社アイ・ティー・ワン
- ・コンピューターサイエンス株式会社
- ・株式会社タリアセンコンサルティング
- ・TDC ソフトエンジニアリング株式会社
- ・株式会社大塚商会
- ・日本プロセス株式会社
- ・株式会社NTT データ関西
- ・日本ユニシス株式会社
- ・Kepner-Tregoe Japan, LLC.
- ・JBCC 株式会社
- ・株式会社富士ゼロックス総合教育研究所
- ・日本アイ・ビー・エム・ビズインテック株式会社
- ・株式会社アイテック

- 株式会社エヌ・ティ・ティ・データ・フロンティア
- 株式会社日立インフォメーションアカデミー
- 情報技術開発株式会社
- 富士ゼロックス株式会社
- アイシンク株式会社
- 千代田システムテクノロジー株式会社
- 三菱総研DCS株式会社
- ソニー株式会社
- 東芝テック株式会社
- 三菱スペース・ソフトウェア株式会社
- 株式会社三菱総合研究所
- NTTデータアイ株式会社
- 新日鉄住金ソリューションズ株式会社
- 株式会社日立ソリューションズ
- 日本自動化開発株式会社
- 日揮株式会社
- 株式会社野村総合研究所
- 株式会社アイ・ティ・イノベーション
- NECネクサソリューションズ株式会社
- 株式会社三技協
- 株式会社JSOL
- NECネッツエスアイ株式会社
- リコーITソリューションズ株式会社
- ニッセイ情報テクノロジー株式会社
- 株式会社RINET
- 株式会社リコー
- 株式会社システム情報
- 住友電工情報システム株式会社
- 株式会社エヌ・ティ・ティ・データ・ユニバーシティ
- 株式会社マネジメントソリューションズ
- トップランダムアンドアイ株式会社
- PMアソシエイツ株式会社
- 株式会社日立製作所
- 株式会社システムインテグレータ
- 日本ビジネスシステムズ株式会社
- コベルコシステム株式会社
- 日本電子計算株式会社
- 富士電機株式会社
- 株式会社日立システムズ
- 株式会社神戸製鋼所
- 日本証券テクノロジー株式会社
- 株式会社リクルートテクノロジー
- クオリカ株式会社
- 株式会社エクサ
- International Institute for learning - Japan 株式会社
- 株式会社ラック
- ニューソン株式会社
- 三菱電機株式会社
- TAC株式会社
- 日本情報通信株式会社
- 日立INSソフトウェア株式会社
- 株式会社シグマクス
- アーケイディア・コンサルティング株式会社
- 株式会社TRADECREATE
- 株式会社日本ウィルテックソリューション
- システムスクエア株式会社
- 株式会社アイ・ラーニング
- 株式会社トヨタコミュニケーションシステム
- 東芝インフォメーションシステムズ株式会社
- 株式会社エンラプト
- Innova Solutions, Inc.
- 株式会社ワコム
- 株式会社HGST ジャパン
- NCS & A株式会社
- 日本システムウェア株式会社
- 日立物流システム株式会社
- SCSK株式会社
- プライスウォーターハウスクーパース株式会社
- アクシスインターナショナル株式会社
- クインタイルズ・トランスナショナル・ジャパン株式会社
- 株式会社東レシステムセンター
- ビジネステクノクラフツ株式会社
- 株式会社シティアスコム
- 株式会社オーグス総研
- 損保ジャパン日本興亜システムズ株式会社
- 株式会社エル・ティー・エス
- グローバルナレッジネットワーク株式会社
- Hansoft株式会社

■アカデミック・スポンサー 一覧 (31教育機関、順不同、2015年5月現在)

- 産業技術大学院大学
- 慶應義塾大学 大学院システムデザイン・マネジメント研究科
- サイバー大学
- 芝浦工業大学
- 金沢工業大学
- 九州大学大学院芸術工学府デザインストラテジー専攻
- 広島修道大学経済科学部
- 北海道大学 大学院情報科学研究科
- 山口大学大学院技術経営研究科
- 筑波大学大学院システム情報工学研究科 コンピュータサイエンス専攻
- 早稲田大学 ビジネススクール
- 早稲田大学 理工学術院 基幹理工学部 情報理工学科
- 公立大学法人 広島市立大学 情報科学部
- 国立高等専門学校機構 仙台高等専門学校
- 北海道大学 サステイナビリティ学教育研究センター
- 大阪大学 大学院工学研究科 ビジネスエンジニアリング専攻
- 愛媛大学工学部および大学院理工学研究科工学系
- 国立高等専門学校機構 八戸工業高等専門学校
- 学校法人中部大学 経営情報学部
- 京都光華女子大学
- 鹿児島大学産学連携推進センター
- 中央大学 文学部社会情報学専攻
- 千葉工業大学 社会システム科学部 プロジェクトマネジメント学科
- 京都工芸繊維大学 ものづくり教育研究支援センター
- 東京工科大学大学院 コンピュータサイエンス専攻
- 北海道情報大学
- 山口大学工学部知能情報工学科
- 川崎医療福祉大学医療福祉マネジメント学部 医療秘書学科および大学院医療秘書学専攻
- 青山学院大学 国際マネジメント研究科
- 公立大学法人 公立はこだて未来大学
- 大阪府立大学 21世紀科学研究機構 産学協同高度人材育成センター

Editor's Note / 編集後記

執筆者の皆さまへ。お忙しいところ、ご協力いただきありがとうございました。

- 2015年3月27日～30日にインドネシア バリ島のThe Westin Resort Nusa DuaにおいてPMI Asia-Pacific LIM 2015が開催されました。今号のトップは、これに参加したPMI日本支部の徳永幹彦理事、麻生重樹理事からの報告です。
- また、韓国ソチョ区にあるカンファレンスセンターにおいて2015年5月15日・16日に開催されたPMI South Korea Chapter Conference 2015について、PMI日本支部の木下雅裕理事から概要の報告です。
- 本年4月初旬から6月半ばにかけて、札幌から福岡まで全国8カ所で行った『『ポートフォリオ、プログラム、リスク』マネジメント 紹介セミナー』の様子について、事務局からご報告しました。講師を務めたのはPMI日本支部のプロジェクト／ポートフォリオマネジメント研究会とリスク・マネジメント研究会に所属するボランティア・メンバーです。熱のこもったセミナーで大変好評をいただきました。
- 毎回好評をいただいている月例セミナーからは、4月度の「もう振り回されない！ クレーム発生時のハンドリング術 ～ステークホルダーの怒りを信頼に変える秘訣～」。電話経験ゼロの社員を電話対応のプロ集団に育て上げた経験を持つ、人材育成コンサルティング会社代表の堀口園生氏による講演について、セミナー委員会 野々市谷 有里氏によるレポートです。
- 残すところあと2週間に迫った「PMI日本フォーラム2015」。本号で全プログラムをご紹介しました。昨年に引き続き、今年も大阪梅田のサテライト会場へ同時中継を行います。

ニューズレター編集担当から読者の皆様へお願い

皆さまからの書評、論評、トピックス、セミナー受講レポート、プロジェクト体験記、PMP認定試験受験体験記などを募集しています。PMI日本支部事務局宛てにお送りください。

PMI日本支部ニューズレター Vol.63 2015年6月発行

編集・発行：PMI日本支部 事務局

〒103-0008 東京都中央区日本橋中洲3-15 センタービル3階

TEL：03-5847-7301 FAX：03-3664-9833

E-mail：info@pmi-japan.org

ホームページ：https://www.pmi-japan.org/

(非売品)